

グローバル化に向け企業の理想と実態に大きなギャップ、効果的な人材開発体制構築が急務
レアジョブ「企業のグローバル人材育成に関する動向調査」結果発表
 イベント「2020年代の『グローバル人材』を考える」2/26に開催

英語関連事業を運営する株式会社レアジョブ（以下、レアジョブ）は、法人契約にて当社サービスをご利用中の企業を対象に、企業の英語研修とグローバル人材開発に関する動向調査を実施しました。その結果を発表いたします。また、イベント「2020年代の『グローバル人材』を考える」を2月26日に開催いたします。

【調査概要】

調査対象：法人契約にて当社サービスをご利用中の企業のご担当者様（2019年11月時点）

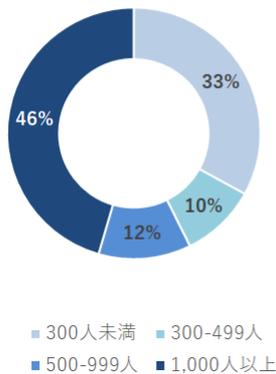
回答数：305名（291社） ※一社で複数名ご回答の企業を含む

調査期間：2019年11月21日～2019年12月10日

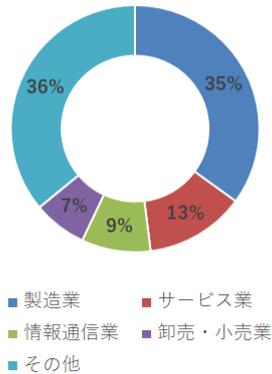
調査方法：インターネット調査

※本調査を引用いただく場合は、「レアジョブ調べ」とご記載ください。

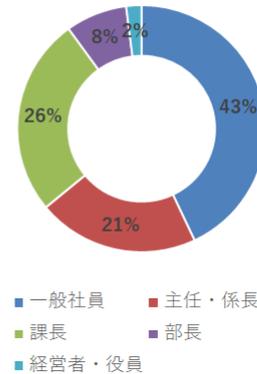
従業員規模別



業界別

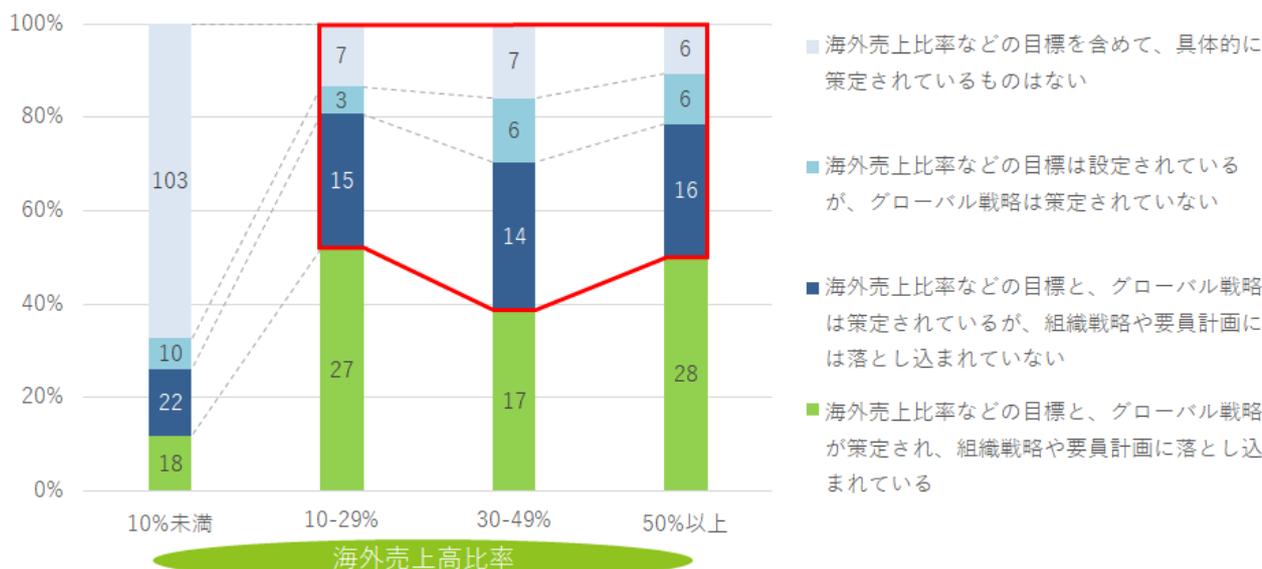


ご回答者役職別



【主な調査結果】

①海外売上比率が10%以上の企業の半数以上でも、グローバル人材育成の計画は十分ではない
 企業における海外売上比率別に、グローバル展開に向けた組織戦略や要員計画の状況を調べたところ、海外売上比率が10%以上の企業でも、半数以上は計画が十分ではないことが分かりました。



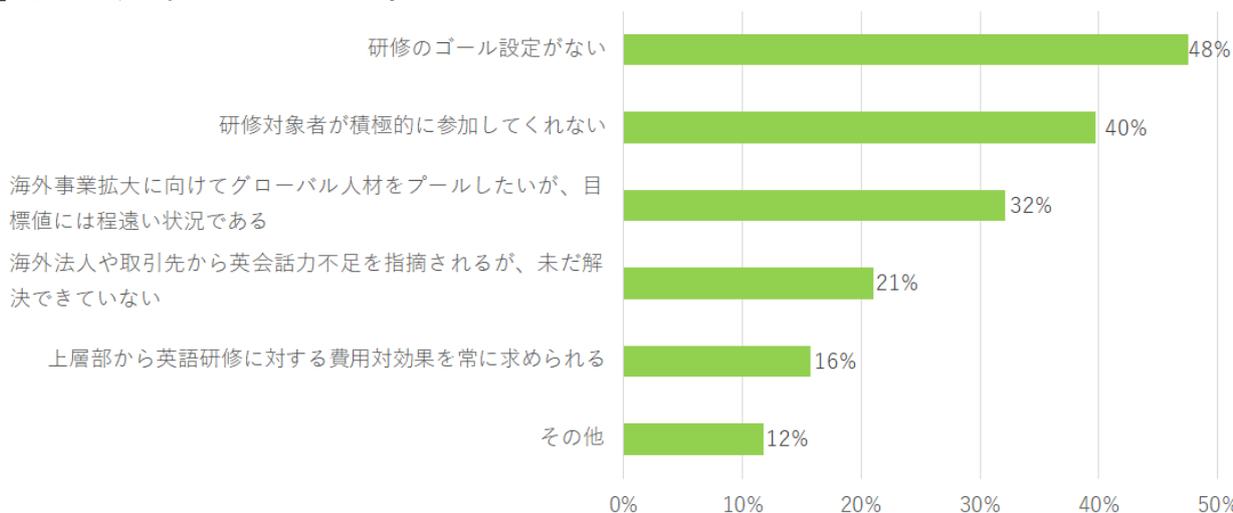
Q：貴社の海外売上比率をお選びください。(N=305,単一回答)

Q：貴社におけるグローバル戦略の状況について、最も当てはまるものをお選びください。(N=305,単一回答)

②3分の2の企業が英語力を測る指標を導入する一方、実務に即した効果測定ができていない

今回の調査では、回答企業の64%が「社員の英語能力を測るための指標を導入している」との結果が得られました。また、「英語研修の成果は『英会話能力の向上』』と考える企業が全体の80%に上る一方で、約50%の企業が「スピーキング能力が測れず、実務に即していない」と回答しています。

現在の英語研修全般(当社サービス含む)に関して課題や悩みについての回答も、「研修のゴール設定がない」ことが最も多くなっています。

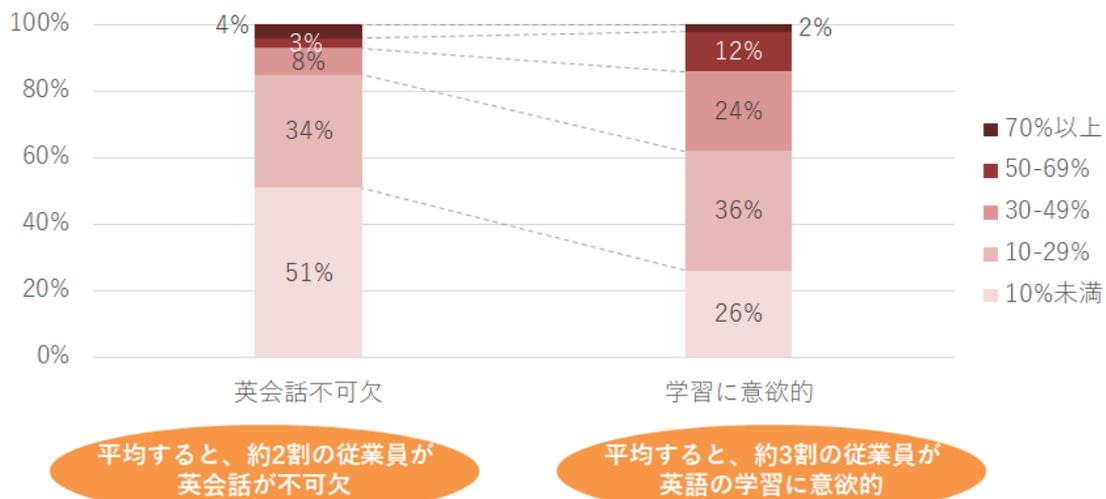


Q：現在の英語研修全般(当社サービス含む)に関して課題や悩みに該当するものをすべてお選びください。(N=305,複数回答)

③業務での必要性に関わらず、平均して従業員の約3割は英会話学習に意欲的であり、英会話

今回の調査結果では「業務で英会話が必要不可欠な社員の割合は、会社全体の30%以上」と回答した企業数は、全体の2割程度にとどまりました。「業務上は英語を必要不可欠とする社員は、現状では一部にとどまる」と言い換えられます。一方で、「業務上の必要性にかかわらず英語学習に意欲的な社員の割合」を回答企業で

平均すると 30%となりました。つまり、“業務上必要ではなくとも英会話学習の意欲がある社員”が、多くの回答企業において一定数存在すると考えられます。



左：貴社において日々の業務に英会話でのコミュニケーションが不可欠な社員の割合をお選びください。
 右：貴社において日々の業務での必要性に関わらず、英会話学習をしたいと考えている社員の割合をお選びください。（N=305,単一回答）

【総括：レアジョブ グローバルリーダー育成事業開発担当 坪内より】

今回の結果を通して、多くの企業にとって事業のグローバル展開が重要性と必然性を増しているものの、その推進力となる人材開発・育成においては、最適な手立てを見つけれられていないという実態が浮かび上がりました。特に英語研修では、実施はしていても実務に即していた指標や、適切な人材開発の成果を計測するモノサシがないため、成果の創出につながる本質的な改善が必要であるとの結果が得られました。

一方、グローバル人材の不足が課題として挙げられるなか、業務上英会話が必要な層よりも、英会話学習への意欲が潜在的に高い社員は多く、潜在層の掘り起こしが可能です。結果として、グローバルリーダーの候補となる人材の「量」を増やすことに繋がります。

また、人材開発を進めるにあたり、目指す人材の定義とその人材像に適した評価指標を導入することで、人材開発の空転を止めることが可能と考えています。

《課題解決につながるポイント》

- ①グローバルリーダーの「量」を増やす潜在層として“英語学習意欲の高い社員”に注目
 ～グローバル人材開発の「量」の担保～
- ②研修に明確な指標を導入し、英語研修の「質」を高めて効率的に成果を創出
 ～グローバル人材開発の「量」の担保～

坪内 俊一 執行役員 経営企画室長 兼 広報室長



Boston Consulting Group にて、国内・海外のトップ企業への経営戦略立案・実行を支援。特に、組織開発、チェンジマネジメント、人事戦略の再構築に多く従事。

エムスリーにて、営業部門のシニアディレクターとして、営業チームを統括すると共に、採用・育成の責任者も兼務。

レアジョブでは、経営企画と広報を管掌。現在、グローバルリーダー育成事業の事業開発も担当。

【「グローバル人材育成に関する調査」全編につきまして】

本調査の全編をご覧になりたい方は、以下よりお問い合わせください。

報道関係者の方：press@rarejob.co.jp

法人企業のご担当者の方等：<https://www.rarejob.com/corporate/inquiry/>

この度、今回の調査結果から見てきたグローバル人材育成における企業の課題や解決方法について、より詳しいお話を以下イベントにて行います。また、現在グローバル展開を加速させるなか、英語研修をはじめとしたグローバル人材育成に取り組んでいる企業にもお越しいただき、「2020年代のグローバル人材」について考えます。

■ イベント「2020年代の『グローバル人材』を考える」



・日時 2020年2月26日(水) 13:00~17:00 ※12:30開場/受付開始

・タイムスケジュール・登壇者

第1部 13:10~13:55

「なぜ、生き残るために英語公用化が必要であったのか？」

HENNGE 株式会社 Executive Officer 汾陽 祥太様

第2部 14:00~14:45

「なぜ、取締役自ら英語を学ぶ必要があったのか？」

弁護士ドットコム株式会社 取締役 田上 嘉一様

第3部 15:00~15:45

「顧客アンケートから見える企業のニーズと、今の課題、そしてどのような解決方法があるのか？」

株式会社レアジョブ 執行役員 経営企画室長 坪内 俊一

(詳細はこちらから)

<https://expo.bizhint.jp/event/823>

【株式会社レアジョブについて】

所在地：東京都渋谷区神宮前 6-27-8 京セラ原宿ビル 2F

代表者：代表取締役社長 中村 岳



URL : <https://www.rarejob.co.jp/>

事業内容：英語関連事業

上場取引所：東京証券取引所マザーズ市場（2014年に上場）

レアジョブでは、グループビジョン“Chances for everyone, everywhere.”に基づき「グローバルに人々が活躍する基盤を作る」ことを目指しています。サービスミッションには「日本人1,000万人を英語が話せるようにする。」を掲げ、マンツーマンのオンライン英会話サービス「レアジョブ英会話」を中心に事業を展開しています。ビジョン・ミッションの実現に向け、EdTech企業のリーディングカンパニーとして、国内のみならず事業のグローバル展開を推進してまいります。

■イメージムービー：レアジョブが描く少しだけ未来の風景

<https://youtu.be/6HWoKierAYs>

■サービス関連情報

- ・累計無料登録ユーザー数：80万人以上※
- ・累計導入法人企業数：2,300社以上
- ・累計導入教育機関数：280校以上

※ユーザー数は、当社の英語サービスすべてのユーザー数を記載

■提供サービス

- ・[個人向けオンライン英会話サービス「レアジョブ英会話」](#)
- ・[「レアジョブ英会話」法人向けサービス](#)
- ・[法人向け「レアジョブ英会話留学」](#)
- ・[教育機関向け英語教育サービス（株式会社エンビジョン）](#)
- ・[2ヵ月短期集中英会話プログラム「レアジョブ本気塾」](#)
- ・[レアジョブ英語学習アプリ「RareJob Apps」](#)
- ・[英語を手段にチャンスをつかむためのメディア「RareJob English Lab」](#)
- ・[英語の価値を見つけるプロジェクト「WHY ENGLISH」](#)

【本プレスリリースに関するお問い合わせ】

株式会社レアジョブ 広報 荒川、水口

メール：press@rarejob.co.jp TEL：03-5468-7401/FAX：03-5468-7402